

# 非行防止教室ならびに薬物乱用防止教育

生徒指導部

7月12日(月) 埼玉県薬物乱用防止指導員協議会川越・坂戸保健所管内会長である山崎 英隆氏を講師にお招きし、全校生徒に向けてオンラインで、非行防止教室ならびに薬物乱用防止に係る講話をしていただきました。

## 講話内容

コロナ禍の中、表立った非行は姿を消しましたが、スマホやパソコンから簡単に非行の道に足を踏み入れてしまう点をご指摘していました。ですから、様々な SNS やホームページを閲覧する時は、『何が危険か。』『どこが危険か。』もしくは『何が安全か。』『どこが安全か。』を予測することが重要であると話されていました。

薬物乱用に関しては、薬物と違法薬物の違いを以下のように説明されました。

違法薬物 : 作って、売って 買って、持って、使ってはいけない薬

認可薬物 : 作って、売って 買って、持って、使ってよい薬

その中で特に重きを置いて話されたことは、**オーバードーズ(薬物の過剰摂取)**の問題です。違法薬物の乱用は、誰でも理解できるように犯罪です。ですが薬局で購入できる合法である医療に使用される薬物でも、用量や用法を守らず過剰に摂取した場合には、違法薬物と同じような覚醒作用が起こってしまい、これをきっかけに違法薬物に手を染めてしまう可能性があるということです。

このような非行や薬物乱用を防止する方法として大切なことは、とにかく**両親・先生・信頼できる友人に勇気をもって相談をすること**を強調していました。

また講話の内容にはありませんでしたが、山崎さまが危惧している点は、コロナ禍で、特に若年層の薬物接種の割合が増加傾向にある点で、**覚醒剤やドラッグという化合物ではなく、大麻吸引が急増**しているとのことでした。

講話後、山崎様からご依頼されたことは、ご家庭内でも、会話を絶やさず、どんなことでも話し合える機会を作っていたきたいとのことでした。

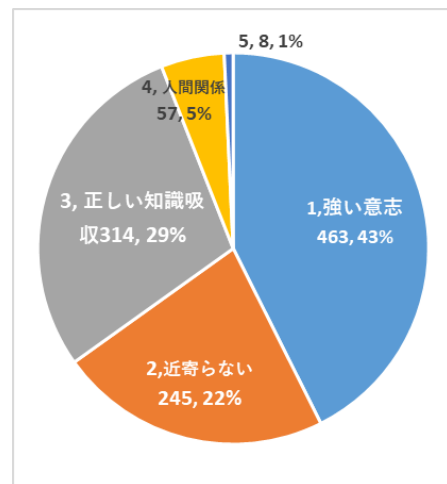
## 非行防止教室ならびに薬物乱用防止教育の集約

各生徒の記載を系統に分けて集約しました。

### 1.あなた自身が、非行の道に足を踏み入れないために、どんなことに気を付けますか。

1.自身を律し、断ることができる強い意志を持つ。	43%
2.非行につながるような悪い環境に近づかないよう心掛ける。	22%
3.正しい知識を吸収し、善悪を考えられるようにする。	29%
4.信頼できる人間関係の構築が大切である	5%
5.その他（非行するわけがない。損になることはしない。など）	1%

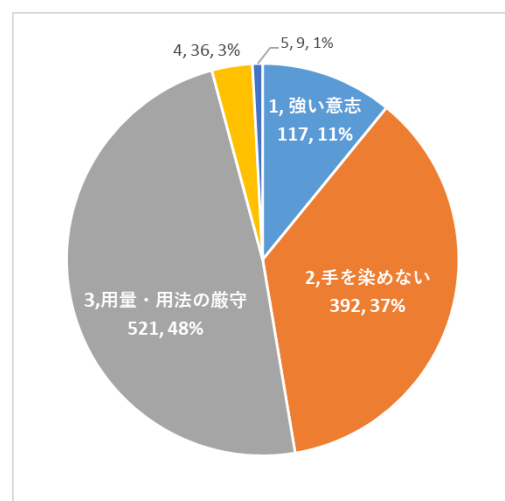
非行の道に入らない部分で、自身の意識は、理解できているが、コロナ禍で人間関係が希薄であることは察せられました。



### 2.薬物に関する講話を拝聴し、どのようなことに気を付けようと思いましたか。

1.絶対に断れる強い意志。	11%
2.違法薬物に手を染めない。	37%
3.認可薬物でも適切な用量・用法を厳守することが重要	48%
4.身近な人間関係の健全化が重要である	3%
5.その他（薬物、自分に関係ないなど）	1%

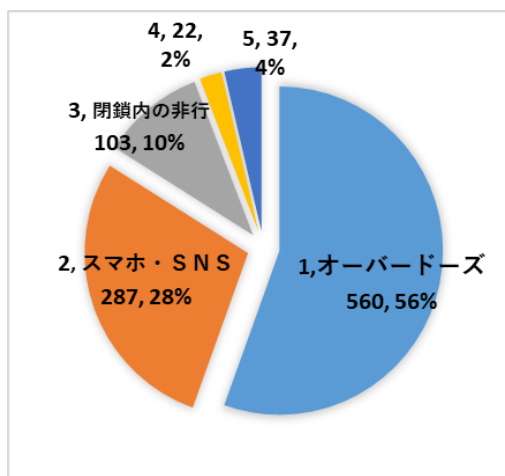
薬物の違いを説明され、認可薬物でも、**用量・用法を間違えると大変**である点に気づけたと受け取れました。



### 3.特に薬物以外に問題となっていることとは、どんなことだったでしょう。

1. オーバードーズに注意。	56%
2. スマホ・SNSの扱いに注意する	28%
3. コロナ禍の閉鎖的สังคมで隠れた非行	10%
4. 人間関係の構築の難しい時代	2%
5.その他（特になし・問題はない等）	4%

本講話のメインテーマであったオーバードーズの問題を、半数以上の生徒は理解していました。また、コロナ禍で問題視される部分が、明確に伺えました。



#### 4.今日の講話を拝聴して感じたことを記入してください。

3年 久保 未千瑠

薬物乱用がダメなのは知っていましたが、新しいタイプの大麻が出て来ていることに驚きました。見た目は普通なのに、大麻の成分が入っているといった場合が多くあると分かったので、注意したいと思います。また自分は関係ないと思っても、薬物の誘いは身近なところにあると知ったので、気を付けたいと思います。

3年 片岡 大輝

薬物を乱用した人の体験談を話してもらい、とても怖く感じました。絶対にそうなりたくないと思改めて感じました。

また家庭常備薬でも、危険性があることを知りました。特に高齢の方が服用したのを忘れて、何回も飲んでしまい、薬物依存になってしまうことを聞き、周囲の人の声掛けで、その乱用が防止できるのだと理解できました。今後は簡単な言葉でもかけていきたいと思いました。

2年 松本佳寿美

薬物とは、本来は「薬となる物質」の意味であると伺って、必ずしも悪い意味を著している言葉ではなかったのだと思いました。また市販の薬でも、過剰摂取をしてしまうと健康を害するという改めて感じました。私は偏頭痛持ちなので、梅雨の時期や台風の前など気圧の変化が激しくなる時に痛みが酷く、頭痛薬を手放せなくなるのですが、用法・用量を間違えると、薬物依存になってしまうのだとわかりましたので、絶対に服用方法を誤らないようにしなければならぬと思いました。

2年 手塚優風

小学生や中学生の時、このような教室は何度もありましたが、改めて薬物は使用方法や危険なものに手を染めることは、私たちに悪影響をもたらす、最悪、死をもたらすことのある大変危険なものだと思いました。また誘ってくる人は、言葉を巧みに操って、いかにも安心なもののように話しかけてきますが、ハッキリ断る事が大切だと実感しました。

1年 下津谷東奈

小学校から薬物はダメと教えられてきました。それでも薬物が減らないということは、ひよっとしたきっかけで薬物に手を出してしまうのだと感じました。今後は、自分はしないだろうと思ひこむだけでなく、目をそらさず薬物に対して正しい知識を吸収していこうと思いました。

また、一人で悩んでいる身の周りの人が、薬物に手を出さないように相談できるような、より良い人間関係を築いていきたいです。

1年 廣本 葵

薬物は危険な薬で、健康が脅かされるので、誰かに誘われても使わないようにしようと思いました。また普通の常備薬でも、用量・用法を守らないと危ないことになるのだということを知りました。今後は、身近な薬物の危険性を正しく認識し、薬を服用するときも気を付けようと思いました。